
赤薔薇の国のアリス

赤の舞姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤薔薇の国のアリス

【Nコード】

N1563M

【作者名】

赤の舞姫

【あらすじ】

美形のお兄さん追ってきてしまった赤薔薇の国
女王の自称奴隷の白ウサギや変態チシャ猫
私この国にいて大丈夫？

プロローグ（前書き）

初めて書く小説なので面白くなかったらすみません
笑い多めだけどシリアスです。

プロローグ

むかし、むかしあるところに白い薔薇に埋め尽くされた白薔薇の国がありました。

そんな国に迷い込んでしまった可愛く可憐な少女がいました。

白薔薇の国の人たちはその可愛く可憐な少女を愛してしまいました。

少女は帰りたいのに、国の人々は家にかえしてくれません。

少女は毎日泣きました。「帰りたい」といつて国の人々を拒絶しました。

これには国の人々も困りました。けれども、そんな少女も彼らは純粹に愛しました。

しかし、彼らの中に狂った愛を持つ人たちが現れました。彼らは少女のことを考えず自分たちの狂った愛を無理やり少女に押し付け見返りを求めるようになりました。

『あなたを永遠に愛するから私たちにも永遠の愛をください』と・

ついには、純粹に少女を愛すものたちと少女に愛を押し付けるものたちとで戦争がおこりました。

少女はそのすきに白薔薇の国から逃げました。逃げ出した少女の名前は

アリス＝リデルとい
いました。

戦争の終わったあとアリスにいないことに気がついた人々は嘆き、
狂ってしまいました。

そして人々は気がつきました。いないならこっちから呼べばいいと
．．．．．

白い薔薇に埋め尽くされていた白薔薇の国はいつのまにか人々の血
で真っ赤に染まった赤い薔薇に埋め尽くされていました。それから
この国は血で染まった『赤薔薇の国』とよばれています。

プロローグ（後書き）

面白かったですか？

感想よろしくおねがいします

白ウサギとアリス

『 時は来た 』

最愛の女王様のために、さあ アリスを迎えに

いじつ 』

私に生まれてから最大の不幸がおこったのはよく空が晴れて
いた日だった。

私は梨出瑠 ありす 名前の由来はリデルならアリスだろ。とい
うことらしい。

私はとにかく不幸少女だった。この世に幸せなんてものはないとお
もうほど

お父さんは借金をのこして蒸発、お母さんは汗水ながしてがんばっ
て借金はすべてかえしたけど、

幼い私をおいて男をつくって蒸発した。 お金を持っていない私を
引き取るのは親族でも嫌がった。

お金があつたらお父さんはいなくならなかった

お金があつたらお母さんは苦しまなかった……

お金があつたら私はこんなにさびしい思いをしなくてすんだのに……

仲のいい友達はお金で命は買えないっていうけどそれはただのきれいごとだと思う。

ただ、買えないのは圧倒的にお金が足りないだけだと私は思う。

こんな暗そうな過去を持っている私だ・け・ど空手2段の超元気っ
こ 趣味 花言葉

今日も私は元気にお金を稼いできた帰り道

ふと後ろから気配がしたのでふりかえると赤い目のした美形お兄さんがいた。

服装は夏なのに長いワイシャツ、赤いベスト、灰色の長ズボンだった。

なんといつでも目をひくのは頭にかわいらしくはえたピクピク動く
白いウサ耳だった

お兄さんはこちらが見ているのに気がつくのにこりとわらって、私
に背を向けて走り出した。

えっ？ええええ いまのなに！コスプレイヤーそれともうさぎもし
かしたら新種かも！

だったら追いかけないと動物園に売ったら私大金持ちよ！

まってて私のお金ちゃ~~~~ん

私は今まで走ったことのないようなスピードお兄さんを追いかけた。

「はあ、はあ、どこに行ったのかしら？」

私もけっこうなスピードで走ったのに美形のお兄さんがどこに行ったのかわからなくなっていた。

下を見るとマンホールらしきものがあつた。

「もしかしてここに入ってっ『ドン』」

マンホールらしきものをのぞいている私の後ろで大きな銃声が鳴つた。

おそろおそろうしろを向くと白い拳銃を片手持って私にむけているさがしていた美形おにいさんがいた

「さあ、アリスそこにとびこんでください」

はあ？ないをいっているんだこのひとは？

「すみません、もう1度いっ「そのあなにとびこんでください」

こんどはさつきよりもゆっくり発音した。

わあああああ！もうこの人狂っているよ！初対面の人に死ねって

いつているようなもんだよ！

「すみませんが丁重におこ」しかたがありませんね」

『トン』軽い音がしたかと思うと私は穴の中におちていった。突き落とされたんだ。

だれにつて？それはあの冷酷ウサ耳野郎にきまっているじゃないか！

「きあああああああゝゝゝゝゝ！」

落ちていくときウサ公が笑いながら手を振っていたような気がするが、

私には悪魔の笑みにしか見えなかった。

白ウサギとアリス（後書き）

短くてすみません

落ちていく・・・(前書き)

おそくなってすみません。

落ちていく・・・

『どこまでも、どこまでも落ちる。この暗い

穴の先には、

どんな未来がま

っているのかしら』

私はまだ落ちていた。かなりの速さで落ちているのにいまだに出
口はあらわれない。

「いつになったらつくのかしら？それにしてもあのウサ公は女の子
を何だと思っているのかしら？いきなり突き落とすなんて、見つけ
たら一発殴らないと気がすまないわ」

女の子が普通は言わないような物騒な独り言をつぶやきながら周り
を見ると、暗かったはずの周りは白いかべとなり、私の写真が壁一
面中にかざってあった。

「へっ？」私は自分でもまぬけに思える声を出してしまった。

だって普通は驚くだろう。黒かったはずの壁が白い壁になるし、自

分の写真が壁一面中にはられているのだからけど私は

「まあ、いつか！ひまつぶしにはなるしね」

とありえない現実から考えるのを放棄して壁にかざっている自分の写真を見始めた。

最初の方の写真は最近のものだった。「おかしいわね」私はそつとつぶやいた

。だつて、どの写真も私はカメラ目線ではない。まるで隠し撮りされたように……

そしてどんどんおちていくと、写真はだんだん過去のものになっていった。

私はその写真を見ながら昔を思い出していた。

落ちていく・・・(後書き)

感想を書いてくれるとうれしいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1563m/>

赤薔薇の国のアリス

2011年2月2日00時06分発行